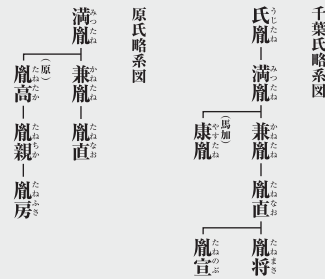


関東の争乱と千葉氏の分裂

関東の争乱と千葉氏の分裂

古河公方側と上杉氏側の争いは、千葉氏にも飛び火し、一族や家臣たちは両派に分かれて戦いを始めました。千葉家本家の千葉介胤直は始め古河公方派でしたが、やがて上杉氏につきました。このため古河公方派であった千葉氏重臣原胤房は、胤直の本拠地であった千葉城を攻めました。敗れた胤直は、一族とともに下総国千田庄(千葉県多古町)の多古城や島城に逃げましたが、これらの城も胤直の叔父馬加康胤や原胤房によって攻められ、胤直の一族は滅亡します。胤直一族の滅亡後、千葉氏の本家は、馬加康胤の子孫が継ぎます(馬加系千葉氏)が、胤直の弟胤賢の子実胤と自胤は、上杉氏等の支持下で武蔵国に移り、これに対抗します(武蔵千葉氏)。



千葉介胤直の墓 多古町東禅寺

千葉介胤直の終焉の地となった東禅寺には大小七基の五輪塔が並ぶ。